

2・3年目看護師に関する研究目的から見た文献検討

Literature review from the perspective of research objectives regarding 2nd and 3rd year nurses

江口裕美子¹ 佐々木美奈子² 未永由理²

1 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻 看護学領域

2 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科

Yumiko EGUCHI¹, Minako SASAKI², Yuri SUENAGA²

1 Division of Nursing, Department of Healthcare, Postgraduate School of Healthcare,
Postgraduate School, Tokyo Healthcare University

2 Postgraduate School of Healthcare, Postgraduate School, Tokyo Healthcare University

要 旨：目的：2・3年目の看護師に関して、どのような研究がなされているかを、研究目的から明らかにする。

方法：医中誌 Web を用い、「2年目看護師」、「3年目看護師」等をキーワードとして直近10年間の文献を検索した。対象とした文献の研究目的について1つの意味を成すコードとして抽出し、カテゴリー化した。

結果：25件の文献を対象とした。カテゴリーは、【精神的負担と課題】、【適応力・適応過程】、【実践上の認識・判断】、【研修効果】が抽出された。【精神的負担と課題】のサブカテゴリーは、〈育成に関する現状と課題〉等、2つで、【研修効果】のサブカテゴリーは、〈テーマ型研修の効果〉、〈振り返ることの研修による効果〉等、3つであった。

考察：看護実践をとりえ始める過程にある2・3年目看護師に関して現状把握の研究がなされ、その現状を鑑み、教育支援として振り返りなどが行われていることが分かった。

Abstract : Objective: The purpose of this study is to reveal the researches on second- and third-year nurses, determining the research objectives.

Methods: Using the Medical Journal Web, we searched the literature for the last 10 years using keywords such as “second-year nurses” and “third-year nurses”. The research objectives of the targeted literature were extracted as a single meaningful code and categorized.

Results: Twenty-five references were included. The categories were “mental burden and challenges”, “adaptability and adaptation processes”, “perceptions and judgments in practice” and “training effectiveness”. The subcategories of “mental burden and challenges” included two categories such as “current status and issues related to training”, and the subcategory of “training effects” included three categories such as “effects of theme-based training”, “effects of training on reflection” and so on.

Discussion: The study was conducted to understand the current situation of second- and third-year nurses who are in the process of beginning to understand nursing practice, and in light of this current situation, it was found that reflection and other educational support is being provided.

キーワード：2・3年目看護師、文献検討、研究目的

Keywords : 2nd and 3rd year nurses, literature review, research objectives

I . 緒言

P. Bennerによれば、臨床経験2・3年目の看護師(以下、2・3年目看護師とする)は、意図的に立てた長期の目標や計画を踏まえて自分の看護実践を捉え始める時期であるとされている¹⁾。一方で、看護実践能力向上における課題に関するインタビュー調査では「新人・若手看護師の基本的看護実践能力の低迷」、「新人・若手看護師に対する教育の不十分さ」など、若手看護師の実践能力に関する課題が挙げられている²⁾。また、新人看護師に対しては手厚く実施されている施設の集合研修は2年目になると減少することや、2年目看護師の離職についての悩みを管理者が知るのは離職を決めてからであることが挙げられている³⁾。さらに、3年目看護師の語りでは、「リーダー業務やプリセプターなど新しい役割が重なっていて、いっぱいいっぱいになり」という、自己効力感が低下している姿も見受けられる⁴⁾。看護職としての発達段階の初期にある2・3年目看護師が、メンタルヘルスの変調や職場からの離脱を引き起こさないようにすることが課題の1つといえる。

そこで、2・3年目看護師に関してどのような研究がなされているかを明らかにするために、研究者の問題意識が示されている研究目的に注目し、2・3年目看護師を対象とした文献検討を実施した。

II . 研究目的

2・3年目看護師に関してどのような研究がなされているかを、文献の研究目的から検討する。

III . 研究方法

「医中誌Web」を用い文献を検索した(2024年6月実施)。キーワードは、2・3年目看護師の課題を広く概観するために、「看護」and「2年目」/「2年目看護師」/「3年目」/「3年目看護師」/「若年看護師」/「若手看護師」とした。絞り込み要件は「原著論文」および「会議録除く」とした。発行期間は、現時点での2・3年目看護師がZ世代として話題になっていること⁵⁾や、2018年より18歳人口が減少している⁶⁾背景を鑑み、直近10年間の2013年以降とした。検索結果の延べ数は1444件で、「解説」、「特集」、

「Q&A」、「事例」、「座談会」に該当する643件は削除した。次に、重複している文献10件は除き、抄録を読み、2・3年目看護師、2年目看護師、3年目看護師がテーマである文献と、学会や教育機関が発行する雑誌に収録されている文献を対象とした。

対象文献の研究目的について、1つの意味を成すコードとして抽出し、同じ意味や内容ごとにカテゴリー化した。研究目的をコードとして表現する際には、論文全体を精査し、論文の論旨や意図を損なわないように留意した。

IV . 結果

対象の文献は25件となった⁷⁻³¹⁾。研究目的についてコード化したところ、総数は27となった(表1)。カテゴリー化により【精神的負担と課題】、【適応力・適応過程】、【実践上の認識・判断】、【研修効果】に分けられた。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉で示す。

【精神的負担と課題】は2つのサブカテゴリーから生成された。〈育成に関する現状と課題〉には、2年目看護師育成の現状や課題について、病棟病長を対象にした調査⁹⁾が含まれた。〈精神的負担の要因〉には、卒後2年目看護師のリアリティショックと職場環境要因の関連を探る研究¹⁸⁾の他、1件²⁶⁾が含まれた。【適応力・適応過程】は3つのサブカテゴリーから生成された。〈組織適応の過程〉には、職場適応の過程をインタビューから明らかにする研究²³⁾が含まれた。〈前向きな意識の様相〉には、2年目の看護師がどのようなことにやりがいを感じているのかを明らかにした研究¹³⁾の他、1件¹⁰⁾が含まれた。〈就業継続や実践力向上につながる経験〉には、先輩や同僚のやりとりと学習意欲や学習行動へのつながりを聴取した研究²⁵⁾や、前向きにとらえ成長につなげた体験を聴取した研究¹⁷⁾の他、4件^{11,19,27,31)}が含まれた。

【実践上の認識・判断】は2つのサブカテゴリーが含まれた。〈臨床判断を明らかにする〉には、2年目看護師がどのような出来事について、どのような実践中の振り返りと実践後の振り返りをしているのかを明らかにした研究²⁴⁾の他、1件⁸⁾が含まれた。〈実践方法、修得過程〉には、クリティカルケア領域において2年目看護師が実践をどのように認識しているかを聴取した研究²⁰⁾の他、1件¹⁶⁾が含まれた。【研修

表1 2・3年目の看護師に関する文献の研究目的

文献番号	コード	サブカテゴリ	カテゴリ
9)	師長が認識している育成に関する現状と課題	育成に関する現状と課題	精神的負担と課題
18)	リアリティショックと職場環境要因の関連	精神的負担の要因	
26)	メンタルワークロードを生じさせる状況		
23)	組織適応の過程	組織適応の過程	適応力・適応過程
10)	2年目看護師が望む支援	前向きな意識の様相	
13)	2年目看護師が感じるやりがい		
11)	就業継続意思に影響を及ぼした経験		
19)	看護実践経験からの学び	就業継続や実践力向上につながる経験	
25)	学習意欲・行動につながる気づきを得るやりとり		
17)	2年目への移り変わり時に成長を感じた体験		
31)	成長につながった経験		
27)	新人看護師と看護ケアを協働した経験	実践上の認識・判断	
8)	トイレ介助を行う際の臨床判断		臨床判断を明らかにする
24)	実践経験とその振り返り		実践方法、修得過程
16)	静脈留置針の固定方法の習得に影響を及ぼす要因		
20)	クリティカル領域における自身の看護実践の認識	研修効果	
7)	院内研修プログラムの評価		テーマ型研修の効果
22)	リーダー研修の効果		
29)	ヘルスアセスメント研修の有用性		
12)	ピア・コーチングの相互関係の構造		ピアコーチングによる効果
21)	ピア・コーチングの様相		
21)	ピア・コーチングの効果		
14)	2年目看護師の教育方法としてのリフレクションの意義と効果	振り返ることの研修による効果	
28)	リフレクション研修によるリフレクション能力の変化と関連要因		
28)	リフレクション研修による大切にしている看護の変化		
30)	臨床におけるリフレクションの様相		
15)	3年目看護師の語る会における臨床看護実践の知の様相		

効果】は3つサブカテゴリーから生成された。〈テーマ型研修の効果〉には、リーダー研修²²⁾やヘルスアセスメント研修²⁹⁾など、院内研修プログラムへの参加者を対象に研修効果を明らかにする研究の他、1件⁷⁾が含まれた。〈ピア・コーチングによる効果〉には、ピア・コーチングをテーマにした研究が2件あり、構造を明らかにする研究¹²⁾や、様相と効果をインタビューにより聴取した研究²¹⁾が含まれた。〈振り返ることの研修による効果〉には、リフレクション等をテーマにした研究が4件あり、リフレクションが対象に与える意義と効果を聴取した研究¹⁴⁾、リフレクションの能力と大切にしている看護の変化を測定した研究²⁸⁾、インタビューからリフレクションの様相を質的に明らかにした研究³⁰⁾の他、1件¹⁵⁾が含まれた。

V. 考察

2・3年目看護師に関する過去10年間の文献の研究目的には、【精神的負担と課題】、【実践上の認識・判断】、

【適応力・適応過程】、【研修効果】があった。【精神的負担と課題】の〈精神的負担の要因〉では、リアリティショックと職場環境要因の関連を探る研究¹⁸⁾があった。この研究者は、2年目看護師が役割を与えられたり期待を受けることの機会が、リアリティショックに繋がっていることを予想していた。職場環境との関連を明らかにすることにリアリティショックの低減を期待していた。リアリティショックは、社会人1年目である新人のみならず、2年目看護師を把握するうえで重要な要素と言える。【実践上の認識・判断】については、2・3年目看護師は自分の看護をとらえ始める時期¹⁾とされており、研究者はこの時期にある看護師の具体的な実践状況の解明を求めていることが考えられた。例えば、〈実践方法、修得過程〉に含まれた文献には、クリティカルケア領域に勤務する2年目看護師に看護実践の認識を聴取している研究²⁰⁾があった。研究者は日々の実践において自信をもっていることや課題と思うことなどをインタビューしており、その結果、重症患者の全体像が把握できない姿や、周囲

の反応からの確かな臨床判断であるかを探る2年目看護師の現状を明らかにしていた。4件中、3件の文献がインタビューによる調査方法であったことから、2・3年目の認識や判断を明らかにするためには、質的調査が必要であると考えられる。さらに、【適応力・適応過程】に含まれた研究の結果には、成長を実感している2年目看護師の様相³¹⁾が見られた。指導者や管理者は、2・3年目看護師に対して適応状況と先に挙げた【精神的負担と課題】とのバランスを把握することが必要であると考えられる。

【研修効果】を明らかにすることを目的とした複数の文献の存在から、専門職として発展途上である2・3年目看護師に対する教育が、臨床現場における課題であることが示唆された。〈テーマ型研修の効果〉には、講義が中心であると読み取れた研修^{7,22,29)}が含まれた。一方で、〈ピア・コーチングによる効果〉や〈振り返ることの研修による効果〉からは、同世代との話し合いや振り返り作業が2・3年目看護師の不明瞭な実践知を確信的なものに促進できる研修があった。2・3年目看護師は、標準的な実践については自立できる³²⁾時期ではあるが、ストレスを抱えやすく³³⁾、短絡的に離職を思案してしまう³⁾という、専門職としての未熟さも持ち合わせている。この状態を緩和に向かわせようとしているのが、ピア・コーチング^{12,21)}や振り返る場^{14,15,28,30)}であると考えられ、複数の研究で効果が明らかにされていることから、今後、多くの施設で活用されることが期待できる。

本研究の限界として、今回は、筆者による文献の収集であり、他にも2・3年目看護師の研究が存在する可能性があることは否めない。また、研究目的に着目したが、2・3年目看護師の課題は、考察などに述べられていることも考えられる。時代の変化に影響することも考えられ、引き続き2・3年目看護師に関する研究を収集し、社会のニーズに対応できる看護師を育成するための課題やその解決法を検討していく必要があると考える。

VI. 結論

臨床経験2・3年目の看護師に関する文献の研究目的のカテゴリー化を行ったところ、カテゴリーとして、【精神的負担と課題】、【適応力・適応過程】、【実践上の認識・判断】、【研修効果】が抽出された。専門職として発達途上にある2・3年目看護師に関して、精神面や適応状態、看護実践の現状を把握し、振り返り等の教育効果を検討し、支援しようとしていることが明らかになった。

引用文献

- 1) Benner, P./井部俊子 監訳. ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 東京: 医学書院, 2009; 21
- 2) 柿田さおり, 大橋麗子, 魚住郁子, 高橋由起子, 竹下美恵子. 中堅看護師が考える所属部署の看護実践能力向上における課題とその解決方法. 日本看護学教育学会誌 2023; 33(1): 63-74. doi:10.51035/jane.33.1-2_63
- 3) 特集 キャリア2年目看護師の育成と定着. 看護展望 2023; 48(2). 9-52
- 4) 総特集 看護職の初期キャリア支援(2章)3年目看護師6人による振り返り. 看護 2021; 73(14): 29-30.
- 5) 後藤健夫. Z世代の教育的背景—教員と学生を隔てる価値観の違いを知るPART1、Z世代を俯瞰する—. 看護展望 2023; 48 (13). 1210-1214.
- 6) 第13回文部科学省大学文科会 将来構想部会(第9期～) 資料2. 2018. https://www.soumu.go.jp/main_content/000573858.pdf
- 7) 稲垣伊津穂, 小久保操, 並松睦世. 卒後2・3年目看護師への課題学習から見えたこと —フォーカス・グループ・インタビューより—. 日本看護学会論文集 看護管理 2013; 43: 227-230.
- 8) 山田由李子, 原田英美. 経験2年目の看護師の脳神経疾患患者に対するトイレ介助の臨床判断. 日本看護学会論文集・看護総合 2014: 44: 70-73.
- 9) 川野マキ, 重永康子. 卒後2年目看護師への育成の現状と課題—九州地方の一般病院に勤務する看護師長を対象としたアンケート調査を通して—. 日本看護学会論文集 看護管理 2014; 44: 19-22.
- 10) 丸山訓子, 小出智子, 中野佳奈子, 田村充千子. 卒後2年目看護師への先輩からの指導を考える—困った場面で受け取った支援からの分析—. 日本看護学会論文集 看護教育 2015; 45: 218-221.
- 11) 佐藤真紀子. 2年目看護師の就業継続意志に影響を及ぼした「周囲から学んだ経験」. 日本看護学会論文集 看護管理 2016; 46: 187-190.
- 12) 富田亮三, 細田泰子, 紙野雪香. 初期キャリア形成期の看護師におけるピア・コーチングの相互関係の構造. 日本看護学教育学会誌 2016; 25(3). 13-24. doi:10.51035/jane.25.3_13.
- 13) 山口大輔, 根井きぬ子, 伊藤寿満子,他. 看護師のやりがいに関する研究—入職2年目の自由

- 記載の分析より一。日本看護学会論文集 看護管理 2017 ; 47 : 90-93.
- 14) 児玉みゆき, 東サトエ. 卒後2年目看護師の行うリフレクションがキャリア開発に与える意味と継続教育方法の検討. 南九州看護研究誌 2017 ; 15(1) : 11-20.
 - 15) 杉田久子, 福井純子, 西村歌織, 唐津ふさ. 臨床看護実践における看護師の知の様相 —3年目看護師の臨床看護実践における知の語り—. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌 2018 ; 14(1) : 37-42.
 - 16) 横山麻美, 佐々木明日美, 賀古千亜紀, 他. 静脈留置針の正しい固定方法の習得に影響を及ぼす要因 ; 日本看護学会論文集 看護管理 2018 ; 48 : 71-74.
 - 17) 森下歩, 定田聖美, 門間よしみ, 小川昌子, 千葉祐美子. 卒後2年目看護師が看護師として前向きになれた事—1年目から2年目に移り変わる時期の看護の体験から—. 日本看護学会論文集 看護教育 2018 ; 48 : 110-113.
 - 18) 鈴木洋子, 河津芳子. 卒後2年目看護師のリアリティショック. 日本看護研究学会雑誌 2018 ; 41(1) : 47-57.
 - 19) 橋本麻由里. 新任期にある学士課程卒業者の看護実践経験をもとにした学び. 岐阜県立看護大学紀要 2018 ; 18(1) : 39-50.
 - 20) 明神哲也, 福田美和子, 岡部春香, 和田美也子, 本田多美枝. クリティカルケア領域に勤務する卒後2年目初期の看護師の実践に対する認識. 日本クリティカルケア看護学会誌 2018 ; 14 : 113-123. doi: 10.11153/jaccn.14.0_113.
 - 21) 富田亮三, 細田泰子. 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングの様相とその効果—フォーカスグループインタビューによる分析—. 日本看護研究学会雑誌 2019 ; 42(1) : 99-109. doi:10.15065/jjsnr.20181004036
 - 22) 中井美鈴, 細田由美子. A施設における看護師リーダー研修の効果—患者ケアの中核者としてのリーダー育成を目指して—. 日本看護学会論文集 看護管理 2020 ; 50 : 195-198.
 - 23) 鈴木洋子. 卒後2年目看護師の組織適応の過程—組織の働きかけ, 個人の行動とその変化に焦点をあてて—. 武蔵野大学看護学研究所紀要 2020 ; 14 : 1-10.
 - 24) 朝日奈まこと, 平木民子. 看護師の2年目初期における反省的实践. 香川県立保健医療大学雑誌 2020 ; 11 : 25-34.
 - 25) 大堀美樹, 篠木絵理. 2~3年目看護師の学習意欲や学習行動につながる気づきを得るやりとり—看護実践と実践内容の共有—. 東京医療保健大学紀要 2021 ; 16(1) : 65-72.
 - 26) 菱谷怜, 野崎真奈美, 永野光子. 若手看護師の看護実践を困難にさせるメンタルワークロードが生じる状況. 人間工学 2022 ; 58(1) : 19-30.
 - 27) 北川奈美江, 丸岡直子, 石川倫子. 2年目看護師が新人看護師と看護ケアを協働した経験. 看護実践学会誌 2022 ; 34(1) : 14-25.
 - 28) 浦上真衣, 奥田玲子, 深田美香. リフレクション研修は卒後2年目看護師に何をもたらしたか—リフレクション能力と「大切にしている看護」の変化—. 米子医学雑誌 2022 ; 73 : 31-44.
 - 29) 渋谷洋子, 蓮見昌紀, 大門尚子, 福井千晶, 川上あずさ. 大学附属病院におけるヘルスアセスメント研修の有用性. 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル 2022 ; 18 : 21-27.
 - 30) 新田桃子, 景山雪姫, 奥田玲子. 新人レベル看護師の臨床におけるリフレクションの様相. 米子医学雑誌 2022 ; 73(1-3) : 11-20
 - 31) 織田裕子, 升田由美子. 大病院に勤務する2年目看護師の成長につながった経験と支援の検討. 日本看護学教育学会誌 2024 ; 33(3) : 123-135. doi:10.51035/jane.33.3-2_123.
 - 32) 看護師のまなびサポートブック. 日本看護協会 2023 ; <https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/publication/pdf/guideline/support-learning-guide-all.pdf>. 令和6年2月15日閲覧.
 - 33) 眞鍋えみ子, 小松光代, 岡山寧子. 新人看護師における就業3年までの職務ストレスとストレス反応に関する研究—看護学士課程卒業後の縦断調査による分析—. 日本看護研究学会雑誌 2014 ; 37(1). 123-131.